

在宅医療・介護連携推進事業：住民啓発（事例）

奥崎いきいきサロン（鳥取市青谷町）

テーマ 「アドバンス・ケア・プランニングを知りましょう」

講師：特別養護老人ホームなりすな 清水由理支援課長

日時：平成30年3月14日（水） 12：30～13：15

場所：奥崎公民館（鳥取市青谷町奥崎）

参加者：21名

【内容】

- ◆ 地域のサロンで、DVD「我が家に帰りたい」第2幕とパンフレット「さいごまで自分らしく豊かな人生のためのわたしたちの心づもり」を使用し、ACP（アドバンス・ケア・プランニング）の説明と話し合いを行った。

（概要）

青谷町の奥崎いきいきサロンの活動の一環として、DVD（我が家に帰りたい）第2幕を視聴し、参加者同士で話し合いをした。また、パンフレット（さいごまで自分らしく豊かな人生のためのわたしたちの心づもり）により、ACP（アドバンス・ケア・プランニング）の大切さを啓発した。



（参加者の主な意見）

- ・今いまは、考えることはできない。
- ・配偶者を見てきた時、これで良いのか悩んだので、こういう話は良い。
- ・自分の考えはまとまっても、伝えていても、突然倒れたりすれば、家族は慌てて救急車を呼び、病院で延命処置をされるのではなかろうか？



(講師の感想)

- ・今は皆さん元気なので「先の事」は抵抗があるようで、話をされない人も半数くらいあった。
- ・姑さんなどの経験談から、自分に置き換えて話をされる人もおられた。
- ・高齢者が話をしたいと思っても、家族（相手）もACPを知らないといけない。若い人は実感がなく話を聞いてくれないこともあるようだ。

(講師：東部地区在宅医療介護連携推進協議会 清水由理ファシリテーター
：特別養護老人ホームなりすな支援課長)

(推進室職員の感想)

はじめての地域サロンでのACP啓発でした。家族の介護経験などがあっても、まだまだ自分のこととしての実感がなく、おとなしめの話し合いとなった感がありますが、大切なことなので考える、話し合ういい切欠になったように思います。話し合う気持ちがあっても、一緒に話し合うべき若い世代が敬遠される場合もあるようで、高齢者だけでなく若い人々にも啓発を進めていく必要性を感じました。

サロンの世話人さま、参加者の皆さま、講師さま、ありがとうございました。私たちも大変勉強になりました。

(東部医師会在宅医療介護連携推進室：橋本渉)